

山ノ内町立学校づくり準備委員会 会議結果報告書

会 議 名	第4回 山ノ内町立学校づくり準備委員会	
日 時	令和7年8月26日（火） 午後5時30分～午後7時30分	
会 場	よませふれあいセンター 軽運動室	
出席・傍聴人数	出席 21人 / 欠席 8人	傍聴者 7人
会議内容	【報告事項】 ・ 前回委員会の会議結果について（資料1） 【会議事項】 (1) 学校統合の開校に向けたコンセプトについて ＜テーマ＞これからの学校と多様な学びについて『グループ討議』（資料2） ゲストスピーカーとして「NPO法人ぱーむぼいす 理事長 池田剛氏」を講師に招き、学校以外の場で学んでいるこどもたちの姿について講演いただいた。 4 グループに分かれ学校の意義や多様な学びに関する意見を自由に出し合い、グループごとにキーワードを3つ発表して、新しい学校づくりに向けた意識の共有を図った。 【その他】 ・ 県内先進地視察について ・ 学校づくりにかわるシンポジウムについて	
決定事項等	・ 学校づくり準備委員会の視察を10月1日（水）に実施 ・ 学校づくりにかかるシンポジウムを11月16日（日）に実施	
会議概要及び 質問・意見等	【これからの学校と多様な学びについて（グループ討議）】 1. 人とのつながり・仲間づくり 多くのグループが学校は人とのつながりや仲間を作る場所として重要であると認識した。このつながりは人間形成の基礎となり、社会性を育むことにもつながり、一人ではできない経験や学びを仲間と共に行うことができる場である。 2. セーフティネットとしての役割 学校はこどもを守り保護者を支えるセーフティネットとしての役割を果たしている。学校を通じて様々な人とつながることで、こどもたちを町全体で育てるための基盤ができる。 3. こどもも大人も「やりたいこと」ができる場 こどもだけでなく、大人も学校で「やりたいこと」ができる場所になれば、より魅力的な場所になるという意見が複数出た。学習活動の中で個に合わせた学びを提供することが重要である。大人がこどもを枠にはめようとしたり、過度な口出しをしたりせず、見守ることが大切だという意見があった。 4. 固定概念にとらわれない学びの場 「先生なし、教室なし、単元カリキュラムなし」といった、従来の学校の固定概念にとらわれない場を作るアイデアが提案された。また、AIに頼りきりにならない、対人での学びの重要性も議論された。 5. 意識改革と柔軟性 学校をより良い場所にするためには、教師や大人の意識改革が必要である。こどもの意見を尊重し、多様な学びを追求する姿勢が求められる。	

会議概要及び 質問・意見等	○全体的なまとめ 今回の議論全体を通して、学校は単に知識を学ぶだけの場ではなく、人とのつながり、社会性の育成、こどもと大人が共に成長できる「コミュニティ」としての役割が重要であるとの認識が共有された。特に、こどもたちが「行きたい」と思えるような、やりたいことが保障される場所づくりが今後の課題として挙げられた。 【その他意見等】 ・学校づくり準備委員会の意見も活発になり非常に良い雰囲気で行われている。学校統合について、委員会と地域の方との温度差が出ているので、この会議の様子を動画配信してもらい、町民にも共有できる環境を作ってほしい。
--------------------------	---